



鹿児島県

鹿児島県農業開発総合センター 熊毛支場



〒891-3101

鹿児島県西之表市西之表4406

Tel 0997-22-0007

Fax 0997-23-2330



1. 研究体制

支場長
(兼 作物
研究室長)

総務室 1名(室長)
作物研究室 4名(室長1, 研究員1, 技術補佐員1, 技術補助員1)
園芸研究室 3名(室長1, 研究員1, 技術補助員1)

2. 研究内容

- 1) サトウキビの機械化体系に適した品種選定, 栽培技術の開発
- 2) サツマイモ基腐病に対応した生産技術の開発, 安納いもの優良系統の選抜
- 3) 早期水稻の品種選定
- 4) 豆類(ソラマメ, 実エンドウ, スナップエンドウ)の生産安定技術の開発
- 5) 水田機能を活かした野菜(ブロッコリー等)の生産安定技術の開発
- 6) ソロヤム優良種苗の選抜と種芋供給

総面積
8.99ha

圃場面積
田 0.6ha
畑 2.3ha

ハウス関係
9棟
1,966㎡

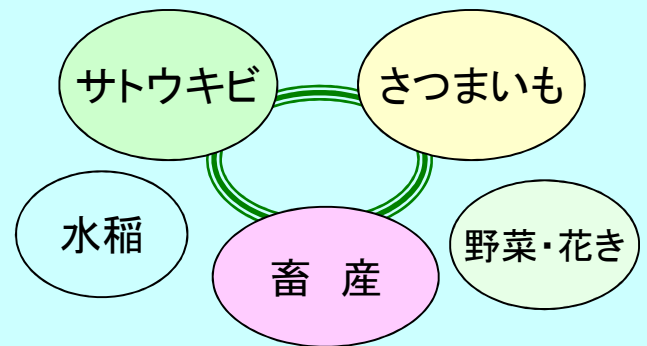
種子島の農業



天女ヶ倉(230m)から見た安納地区(2006.11.15)

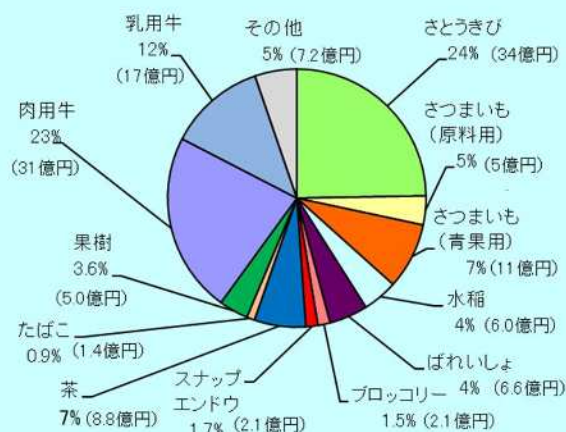
安納地区は太平洋に面した無霜地帯で、冬場の温暖な気候を活かしたバレイショ、スナップエンドウなど園芸が盛んである。写真の中央部は早期水稻の後に牧草(イタリアンライグラス)を栽培し2棟の牛舎が見える。また、中央両側の濃緑のほ場は茶畑、左端の黄緑はガジュツ。その他サトウキビ、サツマイモ(でん粉用)が多い。黒マルチの大部分はバレイショで一部がスナップエンドウ。裸地のほとんどはサツマイモの収穫跡。右上部の白い建物は焼酎工場。

このように当地区は、種子島全体からみると園芸作物が多い傾向であるものの、水稻やサトウキビ、サツマイモ、牧草、バレイショ等がバランス良く作付けされ、種子島農業の縮図をみることができる。

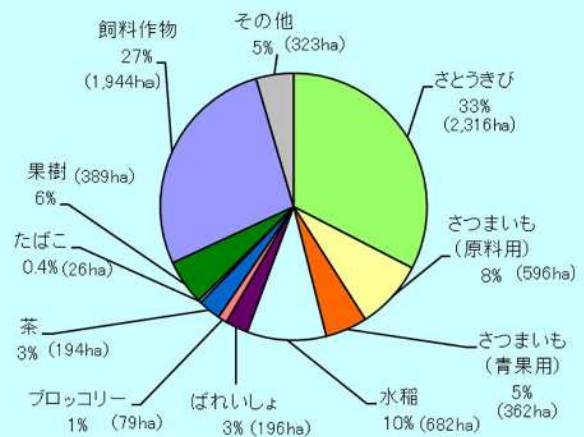


バランスのとれた農業

令和5年度 農業生産額
(熊毛地域 137億円)



令和5年度 作付け面積
(熊毛地域 7,107 ha)



2010年2月23日

早咲きの桜「暖流」

「暖流」は支場内に30本余り植栽。2月中旬から3月上旬にかけて、見事に満開をみせる。種子島は寒さが足りないため、「ソメイヨシノ」は花芽が少なく開花も遅れるが、「暖流」は夏の暑さにも強く、花数の多い暖地向きの桜である。なお、「暖流」の名は、1976年に日本桜の会から導入された51品種の中から選んだものを第十代美園支場長が積極的に増殖し、2006年に愛称名として命名された。

サトウキビ

(2,316ha, 33.9億円, R5年産)

農業生産額が耕種部門で最も多い種子島の基幹作物である。萌芽時期の気温が低い
ため、茎数確保のためにマルチ栽培を推進している。しかし、高齢化や人手不足のため、
マルチ栽培の実践が少ない。そこで、低温下での萌芽が良好で、無マルチ栽培、連続株出
し栽培および機械収穫に適した品種の選定を行っている。また、多回株出し栽培を安定化さ
せるための栽培技術に取り組んでいる。



早期水稻

(682ha, 6.0億円, R5年産)

種子島は、「日本一早いコシヒカリ」の産地であるが、「コシヒカリ」に偏った品種構成により、作期分散を困難にしている。そこで、作業の効率化と規模拡大を可能とするため、熟期の異なる品種の選定に取り組んでいる。



青果用サツマイモ

(362ha, 11.4億円, R5年産)

主要品種は、熊毛支場で選抜した「安納紅」、
「安納こがね」の2品種であり、“ねっとり”とした
食感と甘さのため、平成20年以降急速に栽培面
積が拡大した。更なる品質・収量の向上のため、
優良系統の選抜や栽培技術の開発などに取り
組んでいる。また、最近では、さつまいも基腐病
の被害が大きいため、病害虫部門と連携して、
対策試験に取り組んでいる。



スナップエンドウ

(20ha, 2.1億円, R5年産)

種子島の代表的な園芸作物である。これまで、
深層施肥や仕立て改善、作式改善による増収技
術、冬場の霜害対策、生育後半の「ごま症」の発
生要因の解明と対策、緩効性肥料を気候変動
に対応した安定生産技術(強風の影響を緩和す
る被害軽減技術)の開発に取り組んできた。現在
は、緩効性肥料を使用した施肥技術の確立に取
組んでいる。



ソラマメ

(2.3ha, 0.3億円, R5年産)

熊毛地域のソラマメは、マメ類の中でスナップエンドウに次ぐ園芸品目である。これまで、ソラマメの施肥は肥効調節型肥料(LPコート)を配合した肥料を使用しているが、環境負荷低減に向け、プラスチック含有の少ない緩効性肥料を使用した施肥技術の確立に取り組んでいる。

ブロッコリー

(79ha, 2.1億円, R5年産)

種子島地域のブロッコリーは、平成27年頃から中種子町を中心に作付面積が増加し、さらなる面積拡大が期待されている。これまで、温暖な気候を活かした年内・春どり作型の確立、強風被害軽減、立枯症対策技術の確立などに取り組んできた。

また、現在は水田機能を活かした技術の確立に取り組んでいる。



ソロヤム優良系統の種芋供給

ソロヤムは、屋久島の地域特産「屋久とろ」の原料となるヤマノイモの一種で、現地においては形状不良による商品重量の低下等が問題となっている。そこで、裂開が少なく形状良好で、商品重量の高い優れた系統「13-4」を選抜し、原原種として増殖、種芋供給を進めている。

熊毛支場の沿革

- 昭和6～7年(1931～32) 鹿児島県農事試験場熊毛分場設置。西之表町が用地を買収し、県に寄付
- 昭和8年5月(1933) 試験研究及び農業見習生養成等、本格的に業務開始
- 昭和11年4月(1936) 水稻早期栽培技術の試験を開始
- 昭和14年(1936) 水稻早期栽培が種子島全域に普及
- 昭和25年4月(1950) 農業試験場熊毛分場に改称
- 昭和33年4月(1958) 農業試験場熊毛支場に改称
- 昭和33年8月(1958) エンドウ類の冬どり栽培技術試験を開始。
- 昭和37年4月(1962) 作物経営研究室と畜産研究室を設置(園芸試験研究は作物経営研究室で実施)
- 昭和45年4月(1970) 農業見習生養成事業廃止(昭和10～45年卒業生:男子 541名, 女子 243名 計 783名)
- 昭和45年7月(1970) 研究室を作物研究室と園芸研究室に改編
- 昭和53年3月(1978) 本館及び収納舎の改築・落成
- 平成18年4月(2006) 農業開発総合センター熊毛支場に改称